

抱樸館を支える会 会報

54号



2022年8月1日発行:抱樸館を支える会

地域の暮らしを守る地域みんなで運営するこどもの居場所

～子ども第三の居場所「水巻こどものうち」の開所式取材しました～

福岡県遠賀郡水巻町のグリーンコープ水巻店の目の前に「水巻こどものうち」がオープンしました。2022年6月18日に開所式が行われ、その様子取材しました。また、水巻こどものうちの運営に関わっている、子育てサポートセンターたんぽぽ管理者の西野さんや子ども子育て支援事業部の川久保部長にお話を聞きました。

——開所式はたくさんの方が参加されたとか。

川久保「水巻町や福岡県の関係者をはじめ、組合員、地域で子どもの居場所や子ども食堂を運営している方々など、オンラインでの参加者も含めると60名ほどの方々に参加いただきました。たくさんの方々に支えられ、水巻こどものうちがスタートすることになりました」



——水巻こどものうちのことを教えてください。

川久保「グリーンコープの子どもの居場所は誰でも気軽に来ることができて、子どもたちが安心して楽しく過ごせる場所として運営しています。水巻こどものうちも同様ですが、ここは日本財団の「子ども第三の居場所」事業の助成を受けてスタートしまし

た。地域の民生委員や主任児童委員、学校やスクールソーシャルワーカー、子ども支援オフィスや行政の方々とネットワークをつくり、居場所を必要としている子どもを見逃さず、早期につながりサポートができるようにしていきます」

西野「子どもの居場所＝貧困ではありません。両親が仕事で忙しく、子どもが自宅で一人ご飯を食べているなどの現状もあります。少子化の影響や、共働きの家庭も多く、子どもが安心して過ごせる場所が昔と比べて減ってきています。ここが子どもたちの居場所になり、少しでも安心して過ごせる時間が増えたら良いと思います」



——連携先の子ども支援オフィスのことを教えてください。

川久保「福岡県が独自に行う事業の一つで、福岡県に5カ所あり、子育て世帯のさまざまな困りごとの相談窓口です。水巻こどものうちでは、子ども支援オフィスとの連携をして、その受け皿にもなれるようにしていきます」

——こどものうちの名前の由来は。

西野「組合員のみんなで相談して『おうち』と表現したら柔らかいイメージになるかなと思い決めました。また、ここに来た時にみ

んなが『お邪魔します』ではなく『ただいま』と言って来てほしいと思ってます」

——開催頻度は。

西野「月・木曜日は16:00～19:00、土曜日は11:00～16:00に開催し、スタッフは3人ずつ常駐するようにしています。これから地域に案内したり、イベントの開催をしたりしながら広めていきたいと思います」



——運営スタッフのことを教えてください。

西野「社会福祉法人グリーンコープ子育てサポートセンターたんぽぽのスタッフが中心となり運営を行っています。私たちは普段、託児などを専門に行っ



て、子どもが大好きなスタッフばかりです。普段の仕事での経験を生かして、こどものおうちでも子どもたちと関わっていきえるようにしていきます。その他に、今後は子どもと一緒に遊んだり、食事をしたり宿題を見たりしてくれるボランティアも募集していく予定です」

——普段子どもたちと関わる上で大切にしていることは。

西野「一番は、安心して安全に子どもたちが過ごせるように心がけています。後は、子どもたちと一緒に楽しく過ごしながら、背を向けて座らないように、手の届く範囲にしているようにしています。目配り、気配り、心配り、そしてスタッフ同士の連携が大切だと思います」

——今後やりたいことがたくさんあるとか。

西野「何かをやってあげるではなく、子どもたちと一緒に何か活動を行いたいと考えています。例えば、おにぎりやみそ汁などを一緒に作り、ご飯を食べた後は、自分で片付けるなど家で過ごすなかでの生活習慣を身に付けてもらえたら良いと考えています。その他に、夏休みのイベント企画として、親子で参加して楽しんでもらおうと、竹で

水鉄砲を作るイベントを計画中です。その他に、餅つきなどのイベントも先々でやっていけたらいいなと思います」

グリーンコープ生協ふくおか中部地域理事長の中村晶子さんにお話を伺いました。

——組合員活動のなかでも子どもの居場所について話題になるとか。

「『最近子どもたちが安心して過ごせる場所が本当に減ってきたよね』という話題が出てきます。私が感じるのが、温暖化の影響で外が暑いこと、少子高齢化やゲームの普及もあると思いますが、放課後や長期の夏休みなどでも、外で遊んでいる子どもをあまり見なくなつたように思います。少し昔だったら、夏休みなどは、川遊びをしながら魚を捕ったり、虫取り網を持ってセミなど捕りに行くなど、外で遊ぶことばかりだったような気がします。最近では、防犯上のこと、安全面のこと、両親の共働きが多いこと、コロナ禍の影響など、様々なことがあり、子どもたちが過ごせる場所が少なくなったと感じています」



「居場所があることで、こどもたちは、安心して過ごせると思います。そのなかで、水巻のこどものおうちについては、地域全体で居場所を運営していくようなイメージです。地域のネットワークを生かして様々な連携をして、地域の暮らしを守っている地域みんなで運営をしていきたいと思っています」

——ネットワーク会議が開催されているとか。

「グリーンコープのなかだけの会議ではなく、地域のネットワーク活かして、民生委員、児童委員、スクールソーシャルワーカー、社協など様々な方々との会議を開催し、情報を共有しながら地域のなかで子どもたちを支えていける地域づくりができるように話し合いを開催しています」

——今後やりたいことなどを教えてください。

「組合員としては、親子企画をしたいと思います。また、体験ができるような企画ができると良いと感じます。工作や料理教室など親子で参加できて、楽しく過ごせる時間をつくれるようなイベントを開催したいです」

——ありがとうございました。

子どもから高齢者まで、地域の方みんなの居場所に

～こどもの居場所『みんなのわたげ みやき』取材しました～

2021年10月20日に佐賀にオープンしたこどもの居場所「みんなのわたげ みやき」は、グリーンコープ生協さがのげんきくんのみせ、みやき店内にあります。ここは、社会福祉法人グリーンコープ子育てサポートセンターw a t a g eが中心となって居場所の運営をしています。今回、管理者の内山睦子さんを始めスタッフの方や居場所に遊びに来られていたお母さんにお話を聞いてきました。

——子育てサポートセンターw a t a g eのことを教えてください。

「2002年より『子育てサロンわたげ』として母親の居場所作りを続けてきました。2016年に『子育てサポートワーカーズw a t a g e』として、母親が元気で楽しく過ごすことが子どもの元気につながるという考えのもと、活動を続けてきました。そして子育てで悩みを持っている母親の気持ちに共感しながら、私たちが関わることで、子育てが一緒にできるような子育て応援をしています」



——こどもの居場所の開催頻度は。

「入口にみんなのわたげのタープがかかっているのがオープンの目印になります。毎週水曜の14:00から17:00と土曜日の10:00から13:00に開催しています。今はコロナの影響もあって、予約制にしているお店も多くありますが、私たちはあえてしていません。なぜなら子育て中のお母さんは、何かを予定通りに進めるためには、相当に労力がかかります。時間に縛られず、ちょっと行ってみようかなと思った時に、寄れるようにしています」



——参加可能な対象者は。

「誰でも参加していただけます。チラシに『昔

こどもだった人も大歓迎』と書いているんですが、高齢の方でも、小さいお子さんでも、お父さんやお母さんでも、誰もが気軽に立ち寄れるような地域の居場所にしていきたいと思っています」

——食事の提供などは。

「コロナの影響もあって食事は提供していませんが、来られた方々へお土産に、グリーンコープのお菓子やジュースなどを渡しています。今日は、炊き込みご飯も作っているので、みんなに配るようにしています」

——居場所を運営する中で大切にしていることはありますか

「イベントなどはあえてせずに、ここに来た子ども達に『今日は何しようか』と聞いて、子ども達がしたいことをして、楽しく過ごせるようにしています。『ここに来て楽しかったな、また来たいな』と思ってもらえるようにスタッフが関わるようにします。子ども達をなるべく一人にしないようにして、一緒に遊ばない時間があるときも、必ず子ども達に目配りをしながら過ごすようにしています。ここに来てスマホを触る子どももいますが、スマホを触る時間が無くなるように声をかけて、一緒に過ごすようにしています。その他、子ども達と話をするときは、必ず相手の目を見て、子どもの目線で話をするようにし、遊ぶときは私たちが子ども達と遊んであげるのはではなく、子ども達に遊んでもらっているという感覚でいるようにしています」

——3人のお子さんと一緒に来られていたお母さんに感想を聞いてみました。

「子育て中の母親は、大変なことがたくさんありますが、子育てをしているなら当たり前と思われることも多くあります。ここで育児の先輩であるスタッフのみなさんに話を聞いてもらったり、母親として褒めてもらったり、認めてもらったり、共感してもらえて、とてもありがたく感じます。母親の居場所としても、ここはとてもありがたい存在です」

——ありがとうございました。

2022年7月吉日

一般社団法人 抱樸館を支える会
賛助会員の皆さま

一般社団法人 抱樸館を支える会
会長 三原 幸子

「抱樸館を支える会」の昨（21）年度決算報告と、「抱樸館福岡」の経営状況などについて、以下のとおり、ご報告いたします。

賛助会員の皆さまの暖かいご支援に、心から御礼申し上げます。さて、今（22）年も6月22日に、「一般社団法人 抱樸館を支える会」の第十二期定時社員総会が開催され、昨（21）年度の決算報告をはじめ、必要なすべての議案について、承認・可決いただくことができました。うけて、「抱樸館を支える会」の昨（21）年度決算報告と「抱樸館福岡」の経営状況ほかについて、以下のとおり、ご報告いたします。

「抱樸館を支える会」の賛助会員数は本（22）年6月末現在、
10,810名になりました。

（1）「抱樸館を支える会」の様子について

一般社団法人 抱樸館を支える会は、「ホームレス者及び生活困窮者の支援」を目的とし、2010年6月に設立されました。そして、2013年8月からは隔月で「会報」を発行し、累計発行部数は46万部を超えています。

2017年度から「子どもの居場所づくり」のために寄付を行いました。そして、2020年度から「一般社団法人 抱樸館を支える会賛助会員募集チラシ」にて、「子どもの居場所」「フードサポート」の取り組みを案内したことにより、本（22）年6月末現在の賛助会員数は10,810名になりました。

本当にありがたいことです。賛助会員の皆さま、どうかこれからも「抱樸館を支える会」をお支えくださいますよう、心からお願い申し上げます。

（2）「抱樸館を支える会」は昨（21）年度、以下のとおり、「抱樸館福岡」などに合計2,400万円の寄付をいたしました。そして、引き続き、「生活に困窮する子どもたち」への支援のために1,000万円を寄付しています。その上で、「支える会」は9,703,282円の黒字で決算することができました。

（1）今年度の収入は、前年度繰越金を含めて、36,095,629円でした。

賛助会費は組合員、一般会員、企業会員合わせて31,067,000円でした。

(2) 支出としては抱樸館（北九州、福岡、熊本）の他、前年に引き続き「子どもの居場所」関係に寄付しました。

(3) 具体的には、以下のとおり、寄付いたしました。

こども基金・フードサポート	10,000,000円
抱樸館福岡	10,000,000円
抱樸館北九州	2,000,000円
抱樸館熊本	2,000,000円
合 計	24,000,000円

(4) 支出の合計は、寄付を含めて、26,392,347円でした。

(5) 2021年度の収支差額は、9,703,282円となりました。

(3) 上述しましたとおり、「支える会」は「子どもの居場所づくり」などのために、2017年度以降、毎年1,000万円を寄付することができています。

福岡都市圏を中心に「生活に困窮する子どもたち」を支援する取り組みの輪が広がり、福岡都市圏の小中学校において、「食育」としての「朝食支援」の取り組みが広がりました。

そして現在、「子どもの居場所」「フードサポート」の取り組みとして、合計121カ所に支援を行っています。グリーンコープが直接運営する子どもの居場所（福岡県、佐賀県、熊本県、宮崎県、鹿児島県）の他、フードサポートは、福岡県をはじめ、熊本県、大分県、島根県、岡山県、広島県にまで社会的意義のある取り組みとして、「生活に困窮する子どもたち」を支援する取り組みの輪がどんどん広がっています。

(4)「抱樸館福岡」は「支える会」からの寄付金1,000万円を算入した上で、昨(21)年度は12,588,677円の黒字で決算することになりました。

(1)「抱樸館福岡」の建物建設費は2億3,317万円でした。そして、昨(21)年度は建物の減価償却費として、10,249,550円を計上しています。その結果、累計減価償却費は122,140,470円になっています。

(2) 加えて、昨(21)年度末現在の「抱樸館福岡」の累計剰余は74,526,151円に増加しています。

(3)「抱樸館福岡」の累計剰余(74,526,151円)と累計減価償却費(122,140,470円)を合算しますと、1億96,666,621円になります。これは、「抱樸館福岡」の建物建設費(2億3,317万円)の84.3%に相当いたします。

(4) ですから、私たちは「抱樸館福岡」の建物建設費の85%弱に相当する償却をすでに終えている、ということになります。

(5) 賛助会員の皆さま、これからも頑張りますので、引き続きご支援賜りますよう、伏してお願い申し上げます

以上

抱樸館福岡に新しい仲間が増えました！！

～相談員として困っている人を支えたい～

2022年度に新しく抱樸館福岡の職員として入職された2人を取材しました。萱島沙耶夏さんは今年の4月に専門学校を卒業して、4月から抱樸館福岡の相談員として入職されました。抱樸館福岡では11年ぶりの新卒での採用となります。田上悦子さんは、今年の5月に中途採用として入職しました。

——抱樸館の職員になろうと思ったきっかけを教えてください。

田上「母親の介護をするなかで、家族であるがゆえに感情的になってしまったり、ケアマネなどの第三者が入ることで上手くいくことがあり



田上 悦子さん(左)
萱島 沙耶夏さん(右)

ました。当時、お世話になったケアマネがグリーンコープの方で、それがきっかけで抱樸館のことを知り、同時に相談員の募集をしていました。抱樸館で相談員になったら、家族や友人などに悩みを言えなかった方でも、第三者の私にだったら悩みを打ち明けることができるんじゃないかと思ったこと、そして相談員として誰かの力になればいいなと思ったことがきっかけです」

萱島「麻生医療福祉専門学校の福祉心理課に通っているときに、授業でNPO法人抱樸の映像を見る機会がありました。自分が生まれ育ったところはホームレスを見たことがなかったので衝撃でした。そして福岡おにぎりの会の炊き出しにボランティアとして参加し、ホームレスの方や生活に困窮している方への支援に興味を持ちました。専門学校の先輩が抱樸館福岡で働いていると聞き、それで抱樸館福岡で働きたいと思いました」

——ホームレスの方と出会った印象は。

萱島「自分が思っていた以上に生活困窮の実態を社会が知らないということ、全くお金を持っていないということに驚きました。生活保護という制度があるにもかかわらず、それが機能していない社会なんだと思い

ました。困っている人を助ける制度があるのに、そこにつながらずに苦しんでいる人がいることは本当にショックでした」

——抱樸館で働いてみての印象は。

萱島「福岡市の一時生活支援事業の相談員をしています。当然、入居者の皆さんは私よりずっとぶんと年齢が上なので、孫のように可愛がってくれます。その反面、若いから頼りないかなと、自分自身で心配もしています。ソーシャルワーカーを目指す自分にとっては、抱樸館福岡は幅広い福祉の分野を学べることはとても大きな魅力です。高齢（介護）、障がい、生活困窮、生活保護、孤独・孤立など、地域社会での福祉が詰まっているように感じます。この仕事にかかわって、孤立している人がとても多くいると感じました。ここにいる間は家族のような存在になればと考えています」

——仕事をするなかで嬉しかったことは。

田上「担当している方が『今が立ち直るチャンスだ』と一生懸命に就労に向けて頑張っていました。福岡県生涯現役チャレンジセンターに登録し就労先を探すなかで、簡単には見つからなかったのですが、足繁く通った努力の結果、無事仕事に就くことができました。仕事が決まった時はとても嬉しく、入居者の方々が幸せそうに笑っている姿を見ると、その笑顔を引き出せる力になれるように頑張っていきたいと思っています」

——仕事をする上で大切にしていることは。

田上「支援をするなかで、誰かに何かをしてあげたという気持ちを持たないようにしています。支援をする側、支援をされる側の関係にならないよう、入居者に寄り添いながら対応ができるようにしていきます」

——今後やりたいことなど教えてください。

萱島「入居者の方と話をしていて、人それぞれに色んな思いを持っていることが分かりました。さまざまな不安を抱えられている方に寄り添って、抱樸館福岡を退居した後も安心して生活を送ることができるような支援をしたいと思います」

——ありがとうございました。

ファイバーリサイクルセンターでの就労訓練

～就労に向かうための前準備として～

ファイバーリサイクルセンター（以下、FRCと省略）では、衣類のリユース・リサイクルや国境を越えた子育て支援として、グリーンコープの組合員や一般の方から無償でご提供いただいた衣類をパキスタンへ送り出しています。皆さんから寄せられた衣類が、貧困により教育を受けることのできないパキスタンのスラムに住む子供たちの自立などに役立っています。パキスタンへ送り出しを行うため、衣類を梱包する仕事は相当に大変ですが、抱樸館福岡の入居者などの自立に向けた就労訓練として、衣類の梱包や仕分け作業を一緒に行っています。今回、就労訓練について、FRCの山本由美さんにお話をきいてきました。

——就労訓練のことを教えてください。

「就職活動をする一歩手前の状況にある方が、就職活動をするための準備となるのが就労訓練です。例えば、長らく就労から遠ざかってしまうと、生活リズムが不安定になってしまい、朝きちんと起きられなかったりします。まずは、就労のための生活のリズムを整えながら、少しずつ元気になってもらえるようにサポートしたり、就労への意欲を持ってもらうことも目標の一つです」



山本 由美さん

「就労訓練者とFRCの職員は、同じ作業を同じ時間一緒になって行います。一緒になって作業をすることで、同じ大変さを分かち合うことができ『今日も疲れたね』『でも、頑張ってやり遂げられてよかったね』と一日の達成感を一緒に感じていきながら、明日も頑張ろうという意欲にもつなげていけるようにしています。日々の小さな喜びや達成感の積み重ねで、訓練者は顔つきが明るくなってきたり、声に張りが出てきたなどの変化が表れてきます。また、就労訓練は、ただ一緒に作業を行



うだけではありません。訓練者からのさまざまな情報を見て、聞いて、感じて、訓練者本人を受け止め、訓練者との人間関係をつくるのが大切だと思っています。例えばですが、訓練を始めた当初は、全く話をしなかったのに、一緒に訓練をしていくなかで、少しずつ話しをしてくれるようになりました。今まで職場に信頼できる人がいなかったから話することができなかったと、後になって分かりました。訓練者の心のなかにある不安や課題などが少しずつ見えてきて、訓練をしながら少しずつ課題を解決できるようにしていきます」

——就労訓練の期間は。

「3ヶ月ほどで訓練修了の方もいますし、半年以上参加する方もいます。その方々に合わせて期間を対応するようにしています」

「数ヶ月の間、ここに来て作業をすることで、パキスタンの子どもたちを救うことにつながっているという意識が芽生え、就労訓練者自身が誰かの役に立つということにつながっていると思います。また実際、ここにいる支援員だけではパキスタンへの衣類の送り出しはできません。今の就労訓練者がいることで、成り立っていて、私たちも就労訓練者の力に助けられています。その感謝の気持ちも伝わっていて、それぞれの役割ができていると思います」

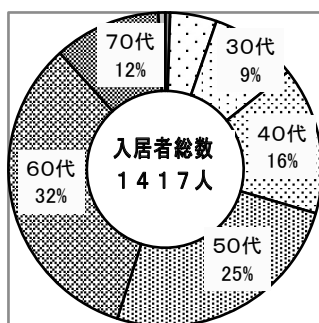
——今後やってみたいことはありますか。

「就労訓練をする場所が少ないのが現状です。就労訓練を受け入れて下さる企業をもっと増やしていきたいです。受け入れて下さる企業が増えることで、就労訓練者が経験する職種や次の仕事の幅も広がります。もちろん、企業側としても労働力や人材確保にもつながってくると思います。人と企業のマッチングが今以上にできるようになっていきたいです。その他に、FRCでの就労訓練修了者が、FRCの支援員（ワーカーズ）になって欲しいとも思っています。自分の経験したことが支援員となってとても生きてくると思っています。今後も就労訓練者と一緒に色々なことに挑戦したいと思っています」

——ありがとうございました。

抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2022年6月末までの入居者数



	人数	割合
10代	9	0.6%
20代	78	5.5%
30代	125	8.8%
40代	219	15.5%
50代	348	24.6%
60代	451	31.8%
70代	175	12.4%
80代	12	0.8%
計	1417	100%

2022年6月末現在の入居者

69人（定員81名） 男性69名、女性0名

2022年5～6月の新入居者数・退居者数

新入居者数22名 退居者数22名

（注：6月末までの入居者数1,417名は、
2度・3度入居した人も1名と数えています。）

抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館福岡の見学のご案内（現在、中止中）

- ・抱樸館福岡を身近に感じていただき、ホームレス問題を深く知っていただくために、広く見学を募ってきました。多くの方が見学に訪れてくださり感謝申し上げます。
- ・大変残念なことです。現在コロナ禍のため、入居者の健康を最優先し、見学を中止しています。
- ・状況が変わりましたら、会報やホームページ等でご案内を再開させていただく予定です。ご了承下さい。

抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日：抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員：以下の18団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協（15生協）
- グリーンコープ連合会
- NPO法人 抱樸（旧：北九州ホームレス支援機構）
- 社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2022年6月末の賛助会員は、以下の通り

- グリーンコープの共同購入組員 10,810名
- グリーンコープの店舗組員・一般の方 181名
- 企業賛助会員 101社

その他（抱樸館の所在地）

- 抱樸館福岡（福岡市東区） 2010年 5月開所
- 抱樸館北九州（北九州市八幡東区） 2013年 9月開所
- 抱樸館下関：新たに開設を準備中
- 抱樸館熊本（熊本市中央区） 2018年12月開所

抱樸館を支える会 賛助会員と会費について

抱樸館を支える会 賛助会員募集

賛助会員を募集しています。
賛助会員には、会報をお届けします。

グリーンコープの共同購入組員

賛助会員の申込には2つの方法があります。

- ①毎月250円の賛助会費を申し込みいただく
（年間で3000円です）

毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。

共同購入申込書の「1300」で申し込みください。

- ②101000円の賛助会費を申し込みいただく
何口でも申し込み出来ます。

申し込みいただいた月の商品代金と一緒に
一括して引き落としとなります。

共同購入申込書の「1299」で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。（グリーンコープの共同購入組員の場合）

- ①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

一般の方、グリーンコープの店舗組員

101000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1010,000円です。出来れば30,000円以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ内

電話 092-482-1964

抱樸館の連絡先

抱樸館福岡（電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772）

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州（電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705）

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11

抱樸館熊本（電話 096-245-7521 FAX 096-245-7522）

〒860-0811 熊本市中央区本荘